

民間事業者による貨物ターミナル建設・運営への支援を通じてイラクの経済発展に貢献

事業概要

本事業は、バスラ県ウム・カスル港において港湾ターミナルの整備を実施することで港湾の貨物取扱能力の向上及び港湾機能の効率化を図り、もって同国の貿易拡大・経済成長に寄与するもの。

インパクト

1. 港湾施設整備の遅れの解消を図り、もって経済成長に貢献

港湾はイラクの国民生活及び経済を支える基幹インフラである。その中でもウム・カスル港は、国内唯一の深水港で、大型船舶が寄港できる唯一の港湾施設。近年イラクにおけるコンテナ貨物取扱量は大幅に増加しており、2015年から2035年までの20年間で約6倍の需要増加が見込まれる。新規貨物ターミナルの整備により取扱貨物量の拡大及び港湾処理能力の向上を図るとともに、民間事業者のノウハウを活用した効率的な港湾管理・運営の実施を後押しする。

2. 既存のJICA事業との連携

JICAはこれまでに、円借款「港湾セクター復興事業」（2008年度）、「港湾セクター復興事業（II）」（2014年度）を、ウム・カスル港において、浚渫や航路の沈船除去、荷役機器の調達等を実施。また、技術協力「港湾セクターマスタープラン策定プロジェクト」ではイラク港湾セクターの中期的な開発計画策定を支援し、港湾公社職員等に対して港湾経営計画立案手法やPPP事業の実務的知識等に係る研修を実施するなど、イラクの港湾セクターを長年に亘って包括的に支援しており、本事業はこれまでの既往案件との連携を図り協力関係をさらに発展させるもの。

レンダー



融資

ウム・カスル港におけるバスラ多目的ターミナル事業

